

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】和歌山地方生活研究グループ連絡協議会研修会～地震・津波についての基礎講座～

令和6年5月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. フェロモントラップによる果樹カメムシ調査を開始	
2. 柑橘類・柿の着花状況調査	
3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会総会を開催	
4. 海南市生活研究グループ連合会が視察研修を開催	
II 那賀振興局	3
1. 紀の川アグリカレッジ修了式及び開講式が開催されました	
III 伊都振興局	4
1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】 ～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・品質対策）の開催～	
2. クビアカツヤカミキリ予防（食入防止）のネット被覆等実証	
IV 有田振興局	5
1. 令和6年度有田地方柑橘類の着花調査を実施	
2. 令和6年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート	
V 日高振興局	6-7
1. 令和6年度「花育」活動を実施	
2. 重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化及び梅の安定生産】 ～うめ「南高」摘心＋カットバック処理による省力化現地研修会を開催～	
3. クビアカツヤカミキリ生産者説明会を開催	
4. 日高地方農業士会女性部会定例会を開催	
VI 西牟婁振興局	8
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入 推進による産地維持】～うめ摘心＋カットバック処理実証園の収量調 査結果～	
2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施	
VII 東牟婁振興局	9
1. 令和6年度産柑橘類の着花状況調査結果	
VIII 農林大学校	10
1. 刈払機取扱作業安全衛生教育を実施	
2. 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会に参加	

Ⅸ 農林大学校 就農支援センター	11-12
1. 令和6年度社会人課程開講	
2. 令和6年度技術修得研修（第1班）開講	
3. 令和6年度ウイークエンド農業塾農業入門コース（第1班）開講	
Ⅹ 経営支援課	13
1. 和歌山県農村青少年技術交換大会が開催されました	

I 海草振興局

1. フェロモントラップによる果樹カメムシ調査を開始

果樹に被害を与えるチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの発生予察を行うため、4月26日にフェロモンを利用した果樹カメムシ誘殺トラップを設置し、5月2日から調査を開始した。トラップは和歌山市1ヶ所、海南市4ヶ所、紀美野町5ヶ所、合計10ヶ所のスギ・ヒノキ林などに設置した。調査はJAわかやま、JAながみね、海草振興局との共同で週1回誘殺数を確認している。

今年2月に実施した越冬量調査では直近20年間で最多の越冬数であり、トラップ調査においても5月末までの誘殺数は平年より高い水準で推移している。今後も調査に基づき生産者に情報提供をしていく。

調査結果は海草振興局農林水産振興部のホームページで公開している。

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/130100/chiiki/nogyoshinko/kajyukamemushi.html>)



トラップの設置

2. 柑橘類・柿の着花状況調査

5月10日、JA、振興局が中心となりNOSAI、市町、試験場の総勢28名参加の下、令和6年産和歌地方柑橘類・柿の着花状況調査を実施した。柑橘類は温州みかんと中晩柑の2種7品種、柿は4品種について180園地で調査を行った。

柑橘類の着花量は、園地や樹によるバラツキがあるものの総体的に平年並からやや多い状況であった。また、新葉数、全体の着葉が中庸であり、樹勢も保たれている。満開期は昨年とほぼ同じで、平年より4日程度早いと思われた。柿は晩霜害に見舞われることなく生育し、満開期は昨年より2日程度遅く、平年より3日程度早いと思われた。

参加者からは「4月中下旬の温度上昇により子房充実への懸念が残るもののスタートとしては順調。隔年結果の振幅も小さくなっている」、「今後の天候等によっては作況が変わることもあり得るので引き続き気を引き締めたい」との意見があった。この結果を基に生産指導を行い、さらに生産量予想のための調査を7月と9月に実施する予定で、実りの秋に向け熱い戦いが始まった。



目揃えの様子

3. 和海地方生活研究グループ連絡協議会総会を開催

5月17日、海南市農村婦人の家において、和海地方生活研究グループ連絡協議会（会長：田端和美氏）が総会及び研修会を開催し、会員17名が出席した。総会では、田端会長から開会の挨拶があり、その後農林水産振興部の黒沼副部長が祝辞を述べた。議案である令和5年度の事業報告、会計報告、令和6年度の事業計画、収支予算はすべて承認された。また、役員改選があり、新会長に奥博子氏が選出された。

総会後の研修会では、県危機管理消防課の石田航太郎主事から「地震・津波についての基礎講座」と題して講演があった。地震・津波に備える大切さを学ぶとともに、日々の活動においてもリスクに備えることが重要であると改めて認識した。



研修会

4. 海南市生活研究グループ連合会が視察研修を開催

5月29日、海南市生活研究グループ連合会は滋賀県甲良町にある「農事組合法人ファームかなや おだいどこ野幸」にて視察研修会を開催し、会員25名が出席した。甲良町産にこだわったランチを試食した後、農事組合法人ファームかなやの鋒山代表理事から法人設立までの歩みについて、加工部片岡氏からおだいどこ野幸の誕生と地産地消にこだわった商品開発について講演があった。会員からは、「材料は何を使っているのか、どのように調理しているのか」などの質問や「地元で採れた食材の活用方法が勉強になった」などの感想があった。今回学んだ地元の食材を活かした取組について、今後の生研グループの活動の中で、活かしてもらえることを期待する。



片岡氏からのお話



地産地消にこだわったランチ

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川アグリカレッジ修了式及び開講式が開催されました

5月29日、紀の川市によるイチゴ研修プログラム「紀の川アグリカレッジ」1期生修了式及び3期生開講式が紀の川市役所で開催された。修了する1期生は5名で、現在研修中の2期生は3名である。

修了式では、岸本紀の川市長から「紀の川市の農業を担うリーダーになってほしい」との激励の言葉と記念品贈呈があり、1期生から「研修を通してたくさんの方にお世話になったので、今後は紀の川市の農業に貢献できるよう努力していく」とお礼の言葉があった。その後、1期生が2年間の研修成果として、研修で学んだ内容や今後の経営計画について発表した。

開講式では、記念品贈呈後、3期生2名から自己紹介と研修への意気込みが語られた。その後、研修生同士の交流会があり、農地の探し方や高温対策の資材等について積極的な意見交換がなされた。



1期生 5名



3期生 2名（中央）と受入農家

Ⅲ 伊都振興局

1. 重点プロジェクト【伊都地域の将来を見据えた担い手対策】

～農業技術講習会果樹コース（かきの生理落果・品質対策）の開催～

5月14日、農業水産振興課では、就農意欲があり基礎技術を習得したい方への技術・経営力向上を目的とした果樹（かき）の栽培講習会を開催し、7名が受講した。

今回は、開花後の管理として、生理落果や品質向上対策について講習を行った。

はじめに、森口普及指導員から、生理落果防止の環状はく皮やジベレリン散布、果実肥大促進や着色促進の環状はく皮および新梢・樹勢管理を、続いて、浅井普及指導員から病虫害防除について説明した。その後、九度山町の園地に移動し、環状はく皮を実演し受講者も体験した。受講者からは、はく皮の時期やはく皮する枝の選び方、新梢管理などの質問があった。

当課では、引き続き講習会（果樹）を12月まで合計5回実施し、栽培指導を行っていく。



座学の様子



現地研修の様子

2. クビアカツヤカミキリ食入防止のネット被覆等実証

伊都地域における令和6年3月末までの果樹へのクビアカツヤカミキリの累積被害状況は、かつらぎ町では415地点、2168本、橋本市では295地点、965本、九度山町では5地点、9本であり、すもも、もも、うめ等で幼虫の食害による被害が増加している。

そこで、被害拡大を防ぐため、5月16日にかつらぎ町で被害が発生したうめ園（1園地）で果樹試験場うめ研究所と農業水産振興課が、予防の現地実証試験を企画した。

うめ研究所職員6名と当課職員2名が対象樹の株元を4mm目ネット（1重と2重の2試験区）で覆い、竹串と結束バンド、Uピンで固定した。また、ネット以外にも樹脂によるコーティング剤を株元や主枝に散布して、コーティングすることで食入を予防する試験区も設定した。

当課では、今後も引き続き関係機関と連携し、防除対策に取り組んでいく。



4mm ネットでの被覆



樹脂によるコーティング剤の散布

IV 有田振興局

1. 令和6年度有田地方柑橘類の着花調査を実施

5月1日に有田地方の柑橘類の着花状況調査をJAありだ、農業共済組合、JAグループ和歌山農業振興センター、近畿農政局和歌山県拠点及び県関係機関の職員28名で実施した。本調査は、着花量や新梢の発生状況を達観（目視）により行うため、はじめに果樹試験場の樹を基準とし調査項目ごとに目揃えを行った。その後、地域ごとに7班に分かれ、温州みかん118園地、中晩柑類31園地の計149園地を調査した。



目揃えの様子

温州みかんの着花指数は、平年を10とした場合、極早生10.6、早生9.6、普通10.0であり、総体的にやや多い傾向で、園地や樹によるバラツキがみられた。中晩柑は「はっさく」で8.4、「清見」で11.3、「不知火」で9.8であった。また、温州みかんの満開期は、3月～4月にかけて気温が高く推移したため平年より早く、極早生で5月3日（平年より4日早い）、早生で5月4日（平年より4日早い）、普通で5月4日（平年より5日早い）となった。これらの調査結果を関係機関で共有し、今後の栽培管理の指導に役立てていく。

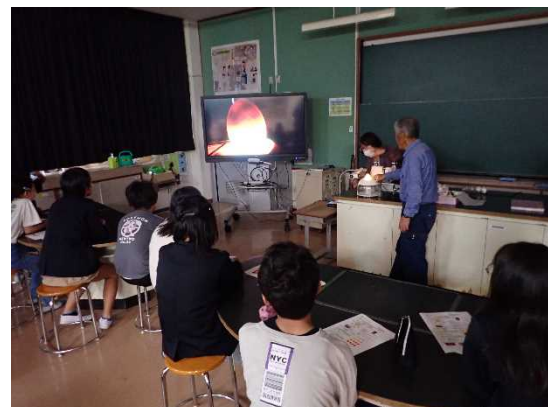
2. 令和6年度田んぼの学校（有田市立糸我小学校）がスタート

有田市立糸我小学校では糸我地区青少年育成会主催による、第24回「田んぼの学校」（校長：山崎佳彦氏）がスタートした。「田んぼの学校」は児童が「総合的な学習の時間」の授業の中で田植え、稲刈りなど年間を通じて米作り・アイガモ農法の体験・実践を行う予定になっており、収穫されたお米は「鴨・米・美」（カモンベイビー）として一般の方にも販売されている。

5年生児童9名は、授業の一環として5月8日に種まき、9日にアイガモ卵の孵卵器への入卵、20日に卵の生育状況を確認する検卵を実施し、山崎氏と農業水産振興課職員から、孵化に必要な条件や、受精卵の成長について説明を受けた。児童らは苗の生育が揃うよう丁寧に種もみをまき、興味深い様子で成長している卵を確認していた。6月には田植え・アイガモ放鳥を実施予定で、収穫・販売まで年間を通じて当課が学習支援を行っていく。



キヌヒカリと黒米の種まきをする児童



有精卵の識別法について説明する山崎校長

V 日高振興局

1. 令和6年度「花育」活動を実施

5月17日、日高地方花き連合会（会長：假家 誠氏）と日高地方農業士会（会長：清水俊夫氏）は、令和6年度の「花育」活動を実施した。この活動は、子どもたちに全国有数の花き産地である当地方の花の魅力や生産を知ってもらうことを目的に実施されており、今年度で16回目となる。

管内の生産者から提供された花で作成した花束と、日高地方の花を紹介したパンフレットを管内の小学校・特別支援学校28校の5・6年生（71クラス、1062名）に届けた。

また、希望のあった9校では贈呈式を行い、うち5校では花き連合会員や農業士会員指導のもと、ミニ花束作り体験を実施した。

ミニ花束作りの体験をした児童は「お母さんにあげる」などと笑顔で話していた。



ミニ花束作り体験と記念撮影（川辺西小学校）

2. 重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化及び梅の安定生産】～うめ「南高」摘心+カットバック処理による省力化現地研修会を開催～

農業水産振興課では、JA紀州、うめ研究所と連携し、うめ「南高」の低樹高化技術（カットバック+摘心処理）による生産性の向上に取り組んでいる。

5月23日、摘心処理（2次処理）の現地研修会を日高川町で開催し、5名の生産者の参加があった。

参加したうめ生産者に対して、充電式電動バリカンによる摘心処理の方法を行森普及指導員が実演指導した。参加者からは「4月の1次処理から伸びた枝のどの部位を切れば良いのか」「2次処理をしないとどうなるのか」等の質問があった。

今後は、カットバック処理及びせん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



摘心処理講習会（日高川町）

3. クビアカツヤカミキリ生産者説明会を開催

J A 紀州、関係市町、うめ研究所、当課などの果樹技術者で構成する日高果樹技樹者協議会（会長：近田勝紀氏）と J A 紀州中央梅部会が協同し、5 月 24 日にうめ生産者を対象としたクビアカツヤカミキリ説明会を開催した。説明会は御坊市 1 カ所、日高川町 2 カ所の 3 カ所で開催し、生産者 39 名の参加があった。

うめ研究所の裏垣研究員と行森普及指導員が講師を務め、裏垣研究員は主にクビアカツヤカミキリの生態及び研究成果について、行森普及指導員は令和 5 年の日高地域における初発生以降の発生状況及び対策について説明を行い、園地の見回りをはじめとして早期発見・早期防除の重要性を伝えた。

今後とも関係機関と連携してクビアカツヤカミキリ防除の啓発に取り組んでいく。



説明会の様子（左：和佐会場、右：中津会場）

4. 日高地方農業士会女性部会定例会を開催

5 月 30 日、日高地方農業士会女性部会（部会長：片山 綾子氏）は、定例会を開催し部会員 18 名の出席があった。

最初に情報提供として、当課の担当から「農薬の適正使用について」説明を行った。

議事では、令和 5 年度活動経過報告が行われた後、令和 6 年度活動計画が検討され、先進地研修と現地研修会を開催することとなった。先進地研修として、三重県の「モクモク手づくりファーム」への視察研修、現地研修会は印南町で行うことが決定した。

また、自己紹介を兼ねた会員の近況報告が行われ、雇用の悩みを中心に意見交換が行われた。

会終了後は、恒例の会員が持参した農産物の交換が行われ、参加者からは歓声が上がっていた。



意見交換会

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】～うめ摘心+カットバック処理実証園の収量調査結果～

農業水産振興課は、うめ「南高」の省力かつ着果安定対策として取り組んでいる摘心+カットバック処理実証園（田辺市下三栖、18年生樹）の収穫調査を5月30日と31日に行った。

長年摘心処理を施した樹は、結果枝の増加に伴い着果過多となり果実階級の低下が懸念されている。そのため当課では、青梅収穫において収穫効率の良い2L級以上の大玉果実の割合を高める枝梢管理技術の現地実証を行っている。

前年秋のせん定時には、垂主枝の先端が下垂しないよう配置するとともに小玉果となりやすい下垂した側枝を切除した。また4月12日に小玉果をさらに減らす対策として、着果過多で下垂した枝を2/3程度切り落とした。

調査結果から、1樹当たり収量は約125kgとなり前年に比べ約26%減少したものの、果実階級では2L級以上の大玉果実の割合が9割以上となり、収穫時の効率は非常に良好であった。

今後は、夏季の摘心処理の追加導入により徒長枝の発生を極力少なくする方法を検討し、枝梢管理労力の軽減に向けた技術の確立を目指す。



収穫の様子

2. クビアカツヤカミキリ発生状況調査を実施

もも・うめ・すもも・さくらなどバラ科の植物を加害する特定外来生物クビアカツヤカミキリの被害が、令和5年5月に紀中地域でも確認され、今年度も紀中地域で被害地域の拡大が確認されており、当地域への侵入に対してより一層警戒を強めている。

西牟婁地方クビアカツヤカミキリ連絡会議（事務局：農業水産振興課）において、5月15～22日にかけてのべ50名の参加のもと、うめ76園地（760本）、すもも20園地（200本）、さくら28地点（900本）の発生状況調査を行った（うめは西牟婁果樹技術者協議会と連携して実施）。調査の結果、アリやコスカシバのフラスがみられたもののクビアカツヤカミキリの被害は確認されなかった。今後の発生状況を踏まえ、調査方法や調査地点について同協議会で検討すると共に、広報誌等への掲載やチラシの配布による地域住民への啓発を継続する。



調査の様子（うめ）

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 令和6年度産柑橘類の着花状況調査結果

J A、太地町役場、各生産団体、県関係機関が協力し、5月2日、14日、16日に東牟婁地域の柑橘着花状況調査を実施した。今回はぼんかん12園地、ゆず29園地、じゃばら8園地の計49園地の着花数や新枝の発生程度を調査した。

調査の結果、ぼんかんの着花数は平年、昨年よりもやや少なく、ゆずにおいても平年、昨年よりも少なく、じゃばらにおいては平年及び昨年並みであった。

また、満開期についてはぼんかんが平年よりも3日程度早く、昨年よりも4日程度遅く、ゆずは平年よりも5日程度早く、昨年と同程度、じゃばらについては平年よりも4日程度早く、昨年と同程度という結果となった。

ほ場ごとにばらつきがあり、着花数が少ない園地が確認されたことから、収量を確保できるよう、今後の栽培管理作業の指導に調査結果を役立てる。

調査状況



ぼんかん

ゆず



じゃばら

VIII 農林大学校

1. 刈払機取扱作業安全衛生教育を実施

5月21日に農林大学校において、1年生16名と社会人課程受講者5名を対象に、刈払機取扱作業安全衛生教育（実施機関：林業・木材製造業労働災害防止協会和歌山県支部）を実施した。

草刈り作業には刈払機が広く用いられているが、使用中は刈刃が高速で回転するため、慎重に取り扱わないと刈刃との接触による手足などの切断、飛び石による負傷、転倒による骨折など、重篤なけがにつながる危険性がある。さらに、草刈り作業の多い夏場は熱中症の危険性が高まり、長時間の作業により振動障害などの健康被害が発生するなど、農業者への負担も大きい。

学生および社会人課程受講者は、このような危険を回避し、刈払い作業を安全に行うため、作業中の事故防止、刈払機の正しい使用方法、適切な整備点検などの講義と実習を熱心に受講した。

2. 東海近畿地区農業大学校学生スポーツ大会に参加

5月30～31日にかけて、滋賀県で行われたスポーツ大会に参加した。

和歌山県農林大学校からは、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球の4種目に出場した。バドミントン団体、バドミントンシングルス、卓球団体、卓球ダブルス、卓球シングルスが3位決定戦に進み、卓球団体と卓球ダブルスが3位と健闘した。

また、試合開始前や試合終了後は、他府県の農業大学校生と混合チームで練習や交流試合を行い、連絡先を交換するなど交流を深めていた。



試合中のバレーボールチーム



卓球男子ダブルス 3位決定戦

IX 農林大学校 就農支援センター

1. 令和6年度社会人課程開講

5月8日、就農支援センターにおいて社会人課程（離転職者等職業訓練「農業科」）がスタートし、7名が受講することになった。開講式では、本センター鳥居所長から「目標を持って、お互いに仲良く、健康に気を付けて研修に取り組んでほしい」との挨拶があり、その後受講生一人ひとりから、研修にかける思いや将来の展望などが語られた。

研修生たちは、来年2月7日までの約9ヶ月間、講義と実習、及び農家研修などにより、実践的な農業技術や農業経営を幅広く学ぶことで、将来の農業関係への就職や就農を目指す。



社会人課程の開講式



うめに関する実習

2. 令和6年度技術修得研修（第1班）開講

5月13日、技術修得研修（第1班）の開講式を開催した。今年度は、県内外から15名の研修生が参加し5月～9月の5ヶ月間（全25日間）、講義と実習を通じて農業の基礎的な知識や技術を学び、就農に必要な実践力を身につけていく。初日は開講式に続き、鳥居所長から『「就農支援センター」で農業を始めよう』と題して講義を行った。午後からは、ミニトマトの芽かきや収穫、選果、調整の実習を行った。研修生からは「わき芽とそれを取る理由や長期促成栽培方法のポイントがわかった」などの感想があった。



技術修得研修の開講式



ミニトマトに関する実習

3. 令和6年度ウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)開講

5月18日、週末を利用して農業の初歩的な知識や技術を学ぶウイークエンド農業塾農業入門コース(第1班)が開講し県内外から13名が参加した。開講式では、鳥居所長から「充実した研修にしてほしい」と挨拶し、その後研修生が自己紹介を行い「美味しい果物や野菜を作りたい」、「農業の基礎を学びたい」など抱負が語られた。

その後、午前中は「和歌山県農業の概要」、「農機具の構造とメンテナンス」の講義、午後は刈払い機や動力噴霧器等農業機械の取り扱い方やメンテナンスの方法を実習した。

翌19日は、午前中「野菜栽培の基礎、スイートコーンの栽培」、「土壌と肥料」の講義、午後はミニトマトの収穫出荷調整とスイートコーンの種まきの実習をした。

今後、8月4日まで計10日間の日程で果樹、野菜、花きの栽培方法など基礎知識を学ぶ。



開講式



実習：トラクターの説明

X 経営支援課

1. 和歌山県農村青少年技術交換大会が開催されました

5月9日、県果樹試験場において、和歌山県4Hクラブ連絡協議会（会長：北川翔大氏）と公益財団法人和歌山県農業公社（和歌山県青年農業者等育成センター）は、令和6年度和歌山県農村青少年技術交換大会を開催し、クラブ員16名が参加した。

北川会長の挨拶の後、ペーパーテスト35問、実物鑑定計15問からなる試験が行われた。テスト直前まで意欲的に過去問を解くクラブ員もみられるなど、参加者らは真摯に問題に取り組んでいた。

試験終了後、普及指導員が採点を行い、新田農業革新支援センター長が試験問題の解説を行った。続いて結果発表が行われ、最高点を獲得した南広4Hクラブの鉢内康太氏と次点の有田川町4Hクラブ辻岡誠之氏が、10月に宮城県で開催予定の全国農業青年交換大会に派遣されることとなった。



ペーパーテストに取り組むクラブ員



実物を見て鑑定

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489